

令和 6 年度第 2 回白石市総合計画・総合戦略推進委員会

1 開催概要

- 日時 令和 7 年 3 月 2 7 日（木）午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 5 分
- 場所 白石市防災センター 2 階 会議室

2 委員

	区分	団体等名称・役職	氏名	出欠
1	産業	白石商工会議所会頭	朝倉 秀雄	
2	産業	白石市産業振興会議代表	佐藤 全	
3	産業	白石市観光協会長	佐藤 善一	
4	産業	白石市認定農業者	志村 竜生	欠席
5	教育	公立大学法人宮城大学事業構想学群教授	徳永 幸之	
6	教育	白石市校長会長	渥美 寿彦	欠席
7	金融	七十七銀行白石支店長	高木 勇人	
8	金融	仙南信用金庫業務推進部業務推進課長	堀田 康郎	
9	労働団体	連合宮城仙南地域協議会白石地区会議事務局長	加藤 雅也	欠席
10	メディア	一般社団法人スポーツ・ラボ理事長	児玉 聡	
11	士業	中小企業診断士	佐藤 勝幸	
12	議会	白石市議会議員	佐藤 秀行	
13	学識経験	白石市歴史文化アドバイザー	麻生菜穂美	
14	学識経験	プランニング開代表・アトリエ自遊楽校主宰	新田新一郎	欠席
15	学識経験	白石市移住交流コーディネーター	太斎 沙織	
16	地域組織	白石市自治会連合会長	紺野 澄雄	
17	地域組織	斎川公民館事務長	佐藤 幸枝	
18	子育て	白石刈田地区父母教師会連合会長	菊地 忠久	
19	子育て	子育て世代	大庭 知子	

3 白石市出席者

	役職	氏名
1	市長	山田 裕一
2	副市長	村上 忠則
3	教育長	半沢 芳典
4	総務部長	佐藤 純哉
5	総務部企画政策課長	高橋 雅美
6	総務部企画政策課長補佐	佐藤 弘子
7	総務部企画政策課	齋藤 将大
8	総務部企画政策課	柏尾 祐輔

4 配布資料

(事前配布)

- ・ 次第・名簿・委員会の役割
- ・ 資料 1 第六次総合計画指標見直し、まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」の策定体制
- ・ 資料 2 白石市まち・ひと・しごと創生第3期総合戦略策定業務_スケジュール
- ・ 資料 3 市民アンケート集計報告書【詳細版】
- ・ 資料 4 白石市まち・ひと・しごと創生第3期総合戦略策定に係る基礎的な地域データの整理分析
- ・ 資料 5－1 第六次白石市総合計画指標見直しのポイント（案）
- ・ 資料 5－2 第六次白石市総合計画指標見直しの方向性一覧表
- ・ 資料 5－3 第六次白石市総合計画における指標の達成状況の検証

5 議事概要

○市長挨拶

本市では、「第六次白石市総合計画」及び地方創生・人口減少対策に重点を置いた「白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」が策定されてから4年が経過しようとしている。この間、コロナ禍や物価高騰等の影響により、様々な社会情勢の変化があった。

本日の「第2回白石市総合計画・総合戦略推進委員会」は、「第2期総合戦略」が令和7年度で終期を迎えることから、「第3期総合戦略」の策定に向けた進め方や見直し内容についてご審議いただく。また、人口減少・少子高齢化の進行状況や社会経済環境などの変化に対応し、総合計画のより一層の推進を図るため、総合計画の指標見直しを行うこととしている。委員の皆様におかれましては、専門的知見をはじめ、普段の生活から感じていることなど、様々な角度からご提案、ご意見を賜りたい。

人口減少を克服することはかなり大変なことである。加えて、少子高齢化は、様々な分野の担い手不足にもつながり、私たち行政だけでは解決できない課題が多く、デジタルを活用しながら、分野横断的に連携していかなければならない。

豊かな自然、育まれてきた歴史・文化、恵まれた交通環境など、白石市が持つポテンシャルを活かし、そして、(仮称)白石中央スマートインターチェンジとその周辺整備を本市の活性化のチャンスととらえ、市民、企業、行政等が一丸となって、市の発展に取り組んでいけるよう、皆様のお力をお貸しいただきたい。本日は忌憚のないご意見を賜りたい。

○審議

(1)「第六次総合計画指標見直し、デジタル田園都市国家構想の実現に向けた白石市まち・ひと・しごと創生「第3期総合戦略」の策定体制及びスケジュールについて

事務局より、資料1・2をもとに説明。

⇒質疑なし

(2) デジタル田園都市国家構想の実現に向けた白石市まち・ひと・しごと創生「第3期総合戦略」について

①令和6年度市民アンケート集計報告書（詳細版）

事務局より、資料3をもとに説明。

【委員からのご意見等】

- 69頁「問10 雇用促進のために必要だと思うことは何か」の質問について。最近、宮城県等でも奨学金返還支援の補助金を支給している自治体が増えている。白石から大学に奨学金で進学しても、ある程度給与が高くないと返済できないため地元企業に就職できない。また「就労体験・インターンシップの充実」については企業が行うことを意味するのか。東京で育った学生が地方で働いてみたいと希望してインターンシップに私の会社にも来るが、その際の宿泊や交通費の助成も宮城県で行っている。人口減の地域では、より使いやすく、なるべく沢山の方に来てもらうため取り組む自治体も増えている。この質問だとどれもあてはまらず選択できないと思うので、その辺も考えてほしい。

⇒ 奨学金の返還について、確かに大学に進学する学生の5割弱が奨学金を借りている。当然、若い年代は所得が低く生活も苦しいという話を伺っている。奨学金については、例えば市内の企業に勤めた場合に市として応援できるか、今後の人口減少という大きな課題の中、若い方々から選ばれるまちとなるために、まさに今検討している。

インターンシップに関しての宿泊、交通費の助成については、今後具体的に事例を調査し、市として何ができるのか検討していきたい。

- 同じく69頁「休暇を取りやすい職場環境」と「女性の再就職支援」について。小学生のいるお母さん達から「仕事を休まなければいけない行事体制が多い」という声がある。子供が3歳離れていると、卒業式や入学式で各々2日仕事を休まなければならない。授

業参観も学年で別々だとそれぞれ休まなければならない。そのため女性は大変働きにくい。また介護をしている場合も休まなければならない。奨学金を返還する年代が上がるにつれ晩婚化の傾向にあり、介護と育児が重なるダブルケアの方も増えてくると思う。女性が仕事を続けにくい環境について、市としてソフト面ハード面から考えていただきたい。

- ⇒ 学校行事等は各学校が独自に行っているため、教育委員会として一律の対応は難しいが、いただいたご意見は校長会等で伝えさせていただく。小中学校の卒業式関係は同日とするのはなかなか難しいが、例えば曜日等工夫できる部分もあると思う。各学校の PTA の場でもご意見をいただくと大変ありがたい。
- 若い人たちが住みやすいまち、選んでもらえるまち、これは非常に重要と再確認できたと思う。指標の見直しや総合戦略にぜひ活かしていただきたい。なお、地区によって非常にサンプル数が少ない地区があるが元の人口が少ないからか。
- ⇒ その通り。特に小原地区は人口自体が少ないためサンプル数が少ない。
- 今後地区別に議論する部分もあると思うが、このアンケートだけではかなり偏る危険性があるので、特に人口の少ない地区は丁寧に補完する情報を取り入れながら行っていただきたい。

②基礎的な地域データの整理分析

事務局より、資料 4 をもとに説明。

【委員からのご意見等】

- 人口ピラミッドは 10 年間の経過であるが、10～14 歳、15～19 歳の年代がその次の 10 年の間にかなりいなくなる。他の自治体では半分位まで減少するところもあるので、そういう意味では比較的貢献しているが、逆に言うと半分位になってもおかしくないということ。その辺りをしっかり見ていく必要がある。また女性の方が減っており、恐らく結婚を機に地元を離れてしまう傾向と思うが、この点も気になるところ。
- さらに 7 頁の出生率では、平成 29 年までは比較的維持・横ばいで推移しているがその後急激に減っており、この影響が 10 年後位に顕在化してくるという意味では、総合戦略の 5 年間だけで考えていては手遅れになる。その先も見越してどういう手を打っていくかを考えるべき。これらのデータを次期計画の検討に活かしてほしい。

(3) 第六次白石市総合計画に係る指標見直しの方向性について

事務局より、資料 5-1～5-3 をもとに説明。

- 「鬼小十郎まつりにおける外国人来場者数」は、令和 5 年実績は 42 人だが、実際は留学生などが沢山来ていて少なくとも 50 人はいたと思う。加えて、街中のクリスマスマーケットでも、軽く見積もって 20 人位の外国人が来ており、「片倉小十郎まつり等」とい

うような指標にすると、この KPI に限りなく近づくとと思う。カウントはできないのは分かるが、ヒアリングベースも入れると、相当この達成に近づくのではないかと。

- 今出ている数値は令和 5 年までの集計だが、コロナ禍も落ち着いた令和 6 年度は非常にインバウンドが増えた印象で、全国的にも自動車輸出産業を抜く勢いでインバウンドの波が来ている。白石城やキツネ村に来ている方も昨年相当増えていると思う。そういった中で、この資料の 7 頁「5-3、観光の振興」では、市内観光宿泊者数や外国人の宿泊者数の指標について「維持」や「縮小」となっているが、もう少し楽観的に考えてもいいと思う。また情報化社会においては、例えば冬の東京駅から北陸に向かう列車の約 8 割が外国のスキー客で、そういう方々がそろそろ東北に目を向けるのではないかと思う。そういったことから、縮小や維持にこだわらず、少し楽観的に見直してほしい。

⇒ 鬼小十郎まつりは、国際交流協会のブースに訪れた外国人をカウントする方法となっており、確かにもっと多いと思われる。白石城の入館者数のカウントなど様々な角度から説明できると思われるので、そちらを補足的に説明するなど、この指標だけではなく考えていければと思う。また、外国人の宿泊客数も令和 5 年までの数値で、令和 6 年、7 年と回復していくと思うので、令和 7 年度に方向性を改めて事業担当課で検討することとしたい。

- 2022 年に白石市でゼロカーボンシティ宣言を行い、白石の環境基本計画の見直し、第三次白石市地球温暖化対策実行計画を含めて変えるタイミングだが、そのことについて今回の項目に出ていないが、別なところで踏襲されているのか。今後スマートインターや工業団地等を考えると、それらの取り組みは PR 材料として非常に大きいと思うので質問する。

⇒ 本日の資料には、環境計画やゼロカーボンシティに関わる指標はないが、ゼロカーボンシティ宣言後、例えばホワイトキューブの ZEB 化などで着実に CO2 の排出量は減っている。これらは行政だけでは何とかなるものではなく、地元の企業の皆様にもご理解ご協力をいただきながら、環境に負荷がかからない持続可能な白石を次の世代に継承できるよう、さらに努力を重ねていきたい。

地球温暖化の計画は、市役所の計画と市民の皆さんを巻き込んだ市全体の計画と二つあり、市役所自体の計画は既に策定し目標を達成している。現在は、令和 6 年度と 7 年度の 2 か年をかけて、市民の皆様を含めた市全体の計画づくりを環境課で行っており、その中で企業の皆様にご支援やご協力をいただく部分が出てくると思う。

- 資料 5-2 の 2 頁「1-4 歴史遺産・伝統文化の継承と活用」も見直し・縮小となっている。ワークショップや講座、地域の歴史文化を紹介する講演会の開催回数は縮小とあるが、これらは、例えば 3 回あってもそこに都合が合う方は限られ、特に 1 回のみの場合は行きたいけれども行けない場合もある。せっかく広報等への掲載回数も増えているのでなるべく縮小とせず、また、子どもたちのシビックプライドの醸成のためにも大事なことだと思うので、ぜひこういったところを大事にしていきたい。

⇒ 行政としては回数だけにとらわれず、その中身や、デジタル技術を活用しハイブリッド方式でオンラインでも視聴できるようにするなどの工夫も重要との議論もある。より多くの皆様が参加、ご覧いただけるよう検討したい。

○ 公民館講座などは単に回数ではなく、それをきっかけとして住民が自主的に地域づくり等に携わることが、まさに市が掲げる協働の入口になると思う。イベントも単に来場人数だけを見て終わりではなく、そこから一歩先に進んで関係人口を増やしていくことを意識した取り組みにすると、人口減少社会であっても、白石市外から地域に貢献してもらえる方や、白石にお金を落としてくれることにも繋がると思うので、ぜひ交流人口だけではなく、関係人口につなげていく施策を進めていただきたい。

⇒ 日本全体が大きな人口減少となっており、2024年の出生数が72万人台になっている。国では72万人台になるのは15年先と想定されていた。それが15年前倒しになっている。それだけ国全体で子どもが生まれていない状況なので、その中で重要になるのは関係人口だと思う。関係人口から定住人口につながれば一番良いが、今は特に優秀な方ほど色々な仕事、色々な場所で活躍するということがあるので、やはり白石に興味関心を持ってもらい、白石の地域づくりや様々なところに参画していただけるよう、シビックプライドの醸成が非常に重要だと思う。特に斎川地区のまちづくりは、全国でもピカイチのまちづくりをされているので、市としても斎川地区の取り組みを他の地区にも広げていけるよう発信していきたい。

○ 働く場の確保はすごく大事。1頁「働く場の創出」について、新しいスマートインタ一周辺の工場団地のことしか言っていない。確かに半導体デバイスの強みは分かるが、この働く場の創出は工場だけではないので、もっと広い視野で働く場を作るという動きをするべきではないか。

⇒ ご指摘の通り。こちらは「見直し」と記載しているが、策定当初は企業誘致、主に新規企業の誘致を一つの目標として掲げたが、実際は新しい企業誘致は決まっていない。しかし、既存の企業も、新たな投資活動を行っており、それが新たな雇用につながっている。

一方、新しく起業する方への支援も市は行っている所以、それらの数値も本来計上できれば良いと思う。企業誘致の数値だけでなく、様々な角度から分析できるような表現が必要と思い、見直しの方向とさせていただいている。

○ 見直しの方向性として大きく2つの点があると思う。まず上方修正に関しては、原則行わないということだが、やはり積極的に取り組むべきことについては上方修正も行うべき。単にその数字を追いかけるだけでなく、その理由や取り組みがあってこそその目標なので、そういった視点で考えてほしい。また下方修正についても、最初に掲げた目標を取り下げるのではなく、原則、目標は掲げたままでよいが、それだけでは達成できないのであれば、やはり取り組みをどうしていくのかという点をしっかり考えるべき。

また、KPIはあくまでも計測できるものを掲げる側面がある。本来総合計画は、KPIで掲げた部分だけでなく、総合的なまちの活性化や持続可能なまちづくりが最大の目標。そこに向けてどう取り組み、結果をしっかりとチェックすることが重要。数値だけを見て満足するということではなく、取り組み自体をどうするかということを常に検討する必要を改めて確認してほしい。

○ 重点戦略の「子どもを産みやすい環境、子どもを育てやすい環境」について、今後の刈田病院の産科の見通しと、子どもの夜間救急の医療体制について教えていただきたい。

⇒ 産科について、白石で赤ちゃんを生める環境を何としても作りたいという強い思いがある。産科を復活させるには、小児救急、新生児の対応が可能な医師が必要で、新たな常勤医にも着任いただき、着々と刈田病院の医療体制は整ってきているので、すぐには難しいが、今後も白石市で妊婦が安心して出産できる体制構築に向けて着実に進めていきたい。また夜間の救急体制については、刈田病院が公設民営となってから病床稼働率が改善し患者の受け入れが増えている。夜間についても積極的に受け入れを行っており、多くの市民の皆様から喜びの声をいただいている。さらに充実した医療提供ができるよう力を入れていきたい。

(4) その他

今回のご意見ご提案については、次期計画につなげていく。

本日の会議内容については、4月中を目標に市ホームページに公表することを説明。

○市長挨拶

皆様本日は忙しいところ、ご参集を賜り改めて御礼を申し上げます。

また長時間の会議にもかかわらず、最後まで熱心に、様々な角度からご意見を頂戴し、深く感謝申し上げます。第六次白石市総合計画に掲げる「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現に向け、困難な課題はあるが、市民の皆様と一緒に乗り越えていきたい。

(以上で閉会)